

笠捨谷

日 時 2012年11月24日 くもり後晴れ
メンバー I.O K.O

169号線から425号線に入り芦廻瀬川の支流、笠捨谷を横切る橋の手前の空地に車を止め、7時過ぎに入渓する。少し歩くと下降予定である行仙谷が左から合流する。続いて美しいナメが出てくる。



さらに1時間ほど進むと20mほどの美しい直瀑が現れる。記録では、周囲は草付きの岩壁が沢を大きく取り囲んでいるため、高巻きが大変であると記されていた。



滝の左側を大きく戻るようにして巻き上がると小さな枝尾根に出会ったのでこれを利用して登る。立ち木を持って上がり岸壁が切れたところで今度は右側へ大きくトラバースして沢に戻った。滝の上部は植林帯になっていた。せっかくなので、沢を少し戻って落ち口を見に行く。

上部も美しいナメが続き、二俣に出会う。頭上には目印になる送電線が見えていた。よく見ないと空の色とが混って発見できにくい。

二俣を右側に取り、5mほどの階段状の滝を楽しく登ったりしながら進むとやがて源流の様相を呈してきた。コケ蒸したガレ場の急登がしばらく続き、左の枝尾根にルートを取って登山道に出た。登山道を5分ほど登って笠捨山のピークに着く。時間は11時過ぎであった。

頂上ではすっかり晴れわたり大峰の大眺望を楽しむことができた。山頂で休憩していると吉野から縦走してきたという若い単独者に出会った。かなり疲れている様子で玉置山には宿泊できる小屋があるかと尋ね

てきた。昨夜は雪に降られテントでは寒くて眠れなかったと語っていた。

しばらく休憩してから、下りのルートである行仙谷をめざして登山道を進む。送電線が出会う手前まで進むと、関電の見回り路と出会い、縦走路には新しい道標がつけられていた。ここが行仙谷の降り口である。行仙谷はロープなしで降りることができるが、結構長く感じられた。

笠捨谷は短い沢であるが美しいナメや小滝が続き、20mの大滝などもあり、半日で遡行できる手ごろな沢であった。

概念図

